

ブラジル：太陽光発電の本格的導入が開始、しかし懸念材料も¹

新エネルギー・国際協力支援ユニット
新エネルギーグループ

ブラジルは太陽光資源に恵まれているものの、これまでに建設された太陽光発電施設は農村電化プログラム等によって導入された小規模なものに限られ、2014 年末の累計導入量は約 40MW に留まっていた。しかしながら、国の電源開発の一環としてこの 1 年間で総計約 2,900MW のユーティリティー規模の太陽光発電施設の導入が競争入札方式によって認定され、今後数年内に建設完了、操業開始の予定となっている。

しかしながら、近年急速に悪化したブラジルの経済状況を考慮すると、ローカルコンテンツ条項を満たすために必要な太陽光パネル等を製造する国内工場の建設が予定どおり進むかという懸念がある。また、この条項を満たすことができないと、太陽光発電事業者は政府系金融機関から低利で資金を借りることができず、そのため事業採算性が悪化し太陽光発電施設の建設が滞る恐れもある。

ブラジルの国家レベルの再エネ発電導入は 2007 年から国家電力庁 (ANEEL) が実施する競争入札によって進められてきたが、長い間、風力、バイオマス、水力のみが入札対象となり、太陽光発電は発電コストが高いため入札資格がなかった。2013 年 11 月に実施された入札において太陽光発電は初めて入札資格を得たが、落札したのは風力発電施設で、太陽光発電施設は一件も落札できなかった。2014 年 10 月の入札では太陽光の専用枠が設定され、この結果、770MW の風力発電 (総数 31 件) と共に、890MW の太陽光発電 (総数 31 件) が初めて落札された²。

本年 10 月には一歩進んで太陽光のみを対象とした入札が実施され、総容量約 1,040MW の太陽光発電が落札した。11 月には風力と太陽光を対象とした入札が実施され、総容量約 550MW の風力発電と総容量約 930MW の太陽光発電が落札した。この結果、上記の通り総計約 2,900MW の太陽光発電の導入が認定されたものである。

本年 9 月、Globo Brazil 社はブラジル初の太陽光パネル製造工場 (年産量 180MW) の操業を開始した。同月、上記入札で落札した SunEdison 社と Canadian Solar 社、および、中国の太陽光パネル製造メーカーの JinkoSolar 社 (年産量 579MW) は太陽光パネル国内工場建

¹ 本稿は平成 27 年度経済産業省委託事業「国際エネルギー使用合理化等対策事業 (海外における再生可能エネルギー政策等動向調査)」の一環として、日本エネルギー経済研究所がニュース等を基にして作成した解説記事です。

² Renewable Energy Policy Brief/Brazil (IRENA)参照
http://www.irena.org/DocumentDownloads/Publications/IRENA_RE_Latin_America_Policies_2015_Country_Brazil.pdf

設計画を発表した。しかしながら、JinkoSolar 社は翌月、この計画を中断すると発表した。理由は明らかにされていないが、過去 1 年間でブラジル通貨レアルの対ドル価値が 40% 近く下落するなどブラジル経済が悪化していることが背景にあると考えられている。

昨年 10 月の入札で落札した風力発電の平均落札価格は 5.74US セント/kWh、太陽光発電の平均落札価格は 8.7US セント/kWh であり、価格競争力の差は大きい。しかしながら、過去三回の入札において太陽光発電の平均落札価格は低下傾向にあり、また、いずれも場合も入札委員会が設定した価格を下回っている。ブラジル政府は 2024 年までに 7GW の太陽光発電を導入する目標を設定している。過去 1 年間で総計約 3GW の太陽光発電施設の導入を認定したことは、経済減速のマイナス要因はあるものの、その目標の達成に向けて大きな一歩を踏み出したといえる。

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp